

～紙芝居を使用する方へのメッセージ～

「残すと良くない」等のマイナスイメージではなく、「野菜は体を元気にする」というプラスイメージで作成しました。ピーマンは擬人化することで、「食べてほしい」気持ちを大人の代わりに伝えてもらう役割を担っています。

「平成17年度子どもと家族の食生活等実態調査（実施：栃木県）」では、保護者が子どもの生活習慣で改善したいことの1位は「好き嫌いなく何でも食べる」（65.2%）です。また、子どもの嫌いな野菜の1位はピーマン（39.4%）でした。

（1）表紙

たっくんは 保育園（幼稚園）に通う 歳の男の子ですが、
ひとつだけ苦手なことがあります。

対象者に合わせて施設名・年齢を変える。

作成：栃木県県北健康福祉センター（平成18年度子どもと家族の健康づくり推進会議）

絵：室井直子教諭・鈴木健太教諭（虹ヶ丘幼稚園）

(2)

たっくんは給食（お弁当）でピーマンが食べられません。

たっくん：「ピーマンキライ・・・」といつも残してしまいます。

対象者に合わせて給食・お弁当の別を変える。

作成：栃木県県北健康福祉センター（平成18年度子どもと家族の健康づくり推進会議）

(3)

ある日たっくんは夢を見ました。

たっくんは気がつくと畑の中にいます。

気がつくと、ピーマン・トマトさんたちの話し声が聞こえてきました。

(4)

< ピーマン・トマトたちの会話 >

ピーマンが「今日僕を食べてくれなかった子がいたよ」と悲しげに言いました。

「あら、かわいそう」トマトが言いました。

別のピーマンは言いました。「どうしてかしら。こんなにピチピチなのに」

(5)

ピーマンたちがたっくんに気づきました。

ピーマン 1 : 「あ、たっくんが起きたぞ！」

たっくん : 「ピーマンさん？」

ピーマン 2 : 「たっくん、こんにちは。ぼく、きれいな色してるでしょ？中身はからっぽだけど、緑の体に元気がたっぷりつまっているんだよ。」

(6)

すると、ピーマンがぱかっと2つに割れました。

「ほら！見てごらん！ピーマンはピカピカに輝きだしました。

たっくんは「わあ！きれい」とさけびました。

「たっくんにはもっとぼくたちのことを知ってほしいんだ。これから畑にいるぼくの仲間に会いに行こうよ！」ピーマンは言いました。

「うん！」たっくんは答えました。

(7)

ピーマンとたっくんは畑の奥へピーマンがいっぱいの畑に進んでいきました。

ピーマンのお友達が言いました。

「栃木の農家のおじさんがぼくを一生懸命に育ててくれたんだ～。ぼくは 保育園（幼稚園）のみんなに食べてもらうのが夢なんだ～。」

対象者に合わせて施設名を変える。

作成：栃木県県北健康福祉センター（平成18年度子どもと家族の健康づくり推進会議）

(8)

別のピーマンが言いました。「私、みんなの体を元気にしたいの！」
すると大勢のお友達が「ぼくも・・・！私も・・・！」と言いま
した。

たっくんは「ピーマンさんはぼくたちの体のことを考えてくれてい
るんだな。」と思いました。

(9)

たっくんは目を覚ましました。

たっくん : 「あれ・・・？夢だったんだ・・・。」

(1 0)

そして給食（お弁当）にピーマンが出ました。

たっくんは思いました。「・・・ぼくを元気にしてくれるのかな」

対象者に合わせて給食・お弁当の別を変える。

作成：栃木県県北健康福祉センター（平成18年度子どもと家族の健康づくり推進会議）

(1 1)

たっくん : 「ちょっとだけ、食べてみよう。」

たっくんはパクリ！と食べました。

(1 2)

それを見ていた先生とお友達が「たっくん、すごーい。」と手をたたきました。

たっくんは「これからは何でも食べるよ。」と言いました。

そして、心の中で夢のピーマンに「ありがとう」と言いました。

(1 3)

たっくんはにっこりと笑顔になりました。

それから、たっくんは何でも野菜を「おいしい、おいしい」と言って食べるようになりました。

～おしまい～